

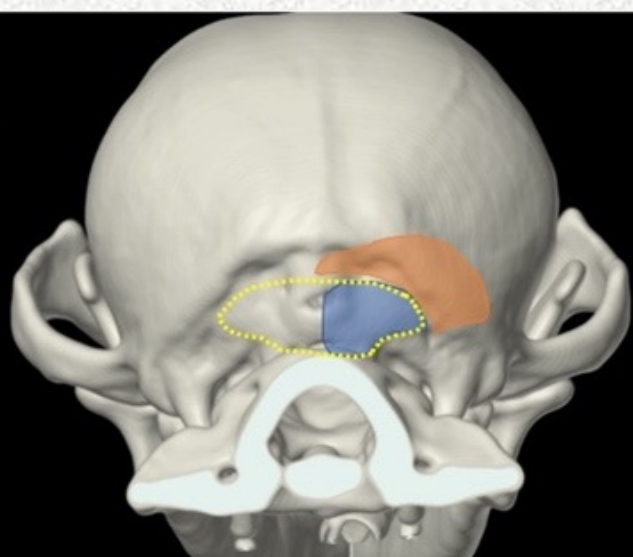
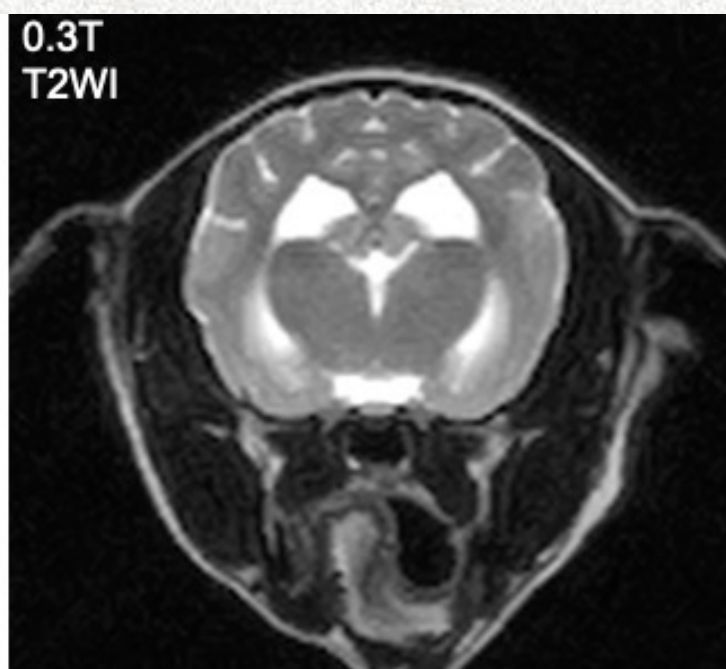
ご紹介いただきやすい動物病院を目指して、皆様のお役に立てる情報をお届けします

## 小滝橋動物病院グループ Case Report

### 「小脳脳幹領域に発生した髄膜種の摘出手術を行った犬の例」

Otakibashi Animal Hospital Group

News Letter vol. **4**



- ・神経科紹介：筋電図検査について
- ・症例紹介：「小脳脳幹領域に発生した髄膜種の摘出手術を行った犬の1例」
- ・コラム：神経科設備紹介

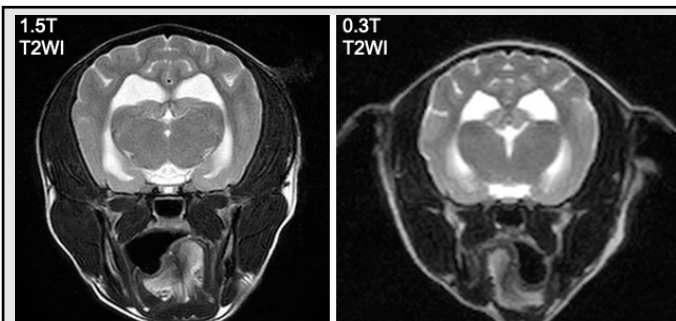
# 新目白通り第二高度医療センター(小滝橋動物病院グループ)

## 神経科紹介

### 診療案内

高度医療の発展に伴い、獣医療で神経病を診断する機会は非常に増えており、日々新しい知見が報告されています。その理由として大きいものが、中枢神経疾患を画像として捉えられる MRI 検査を実施できる施設が増加していることにあります。また、脳波検査によるてんかんの診断や、神経伝導検査、筋電図検査といった末梢神経や筋肉の機能検査(電気生理学的検査)の理解が深まってきたことが現在の獣医神経病学の発展につながっています。

当院グループの新目白通り第二高度医療センターでは神経科診療を精力的に行なっており、MRI 検査、電気生理学的検査による診断から、神経外科を含めた治療まで一貫して実施可能です。当院の MRI 装置は 1.5T の高磁場強度を用いており、0.3T などの永久磁石の装置と比較して、鮮明で詳細な画像が得られます。また、早期の脳梗塞や腫瘍等の鑑別に用いる拡散強調画像(DWI)や、血腫/微小出血の診断に用いる T2\*強調画像などの特殊な撮像プロトコルもルーチン化し、細かい所見も見逃さないようにしています。



頭部 MRI T2WI 左:1.5T、右:0.3T で撮像

1.5T の画像は 0.3T と比較して皮髄のコントラストが明瞭に描出されている。また、周囲の軟部組織も詳細な評価が可能である。

### 症例紹介

#### ① 反復刺激試験で重症筋無力症と診断した犬

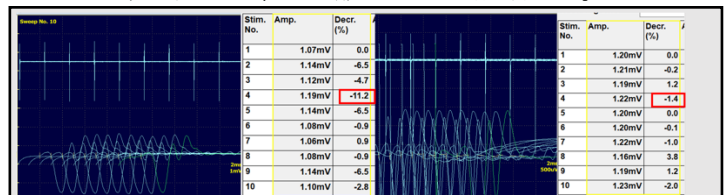
1 歳 4 ヶ月齢 雑種

易疲労症状および歩様異常を主訴に来院



頭部下垂、長距離歩行にてバニーホップ様歩行、ストローク長短縮、座り込みが認められる

MRI 検査にて脊髄に異常所見は認められず、シグナルメントより重症筋無力症を疑った。症状の悪化が認められたため、電気生理学的検査(反復刺激試験)およびテンシロン試験を実施し、重症筋無力症と診断した。



反復刺激試験(3Hz 刺激)

左:テンシロン試験前、右:テンシロン試験後

10 回の連続した反復刺激において、4 発目で 10%以上の CMAP 振幅の減少が認められる(左図;赤枠)。この所見は重症筋無力症に特徴的な所見である。テンシロン投薬後では CMAP 振幅は減少せず、試験陽性であることが主観的に評価できる(右図;赤枠)

早期に診断、治療を実施することができ、現在は無治療で寛解状態が維持できている。この症例の抗アセチルコリンレセプター抗体は陰性であり、電気生理学的検査が非常に有用であった。

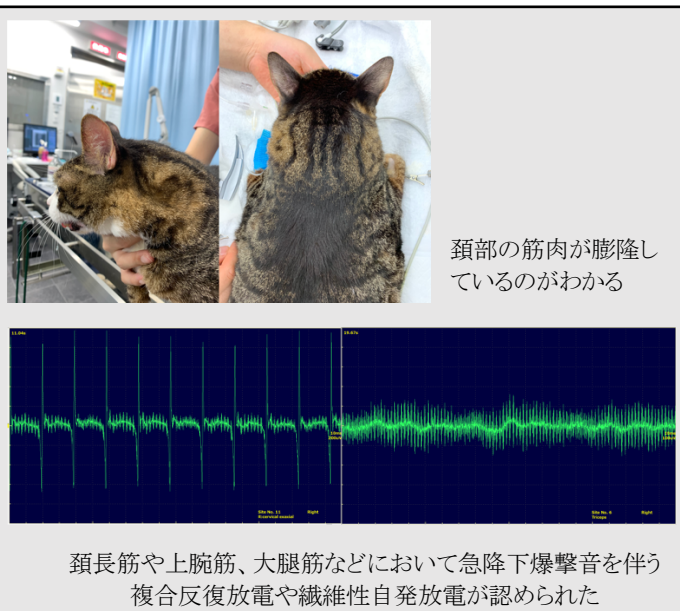


## ② 筋電図検査、筋生検検査で肥大型筋ジストロフィーと診断した猫

9歳齢 雑種猫

数年前からの原因不明の筋肉膨隆、呼吸促迫を主訴に来院

体幹部を中心に筋肉の肥大が認められ、特に頸部筋肉の膨隆が顕著であった。血液検査でCPKは $>20,000$ の異常高値を認めた。筋原性疾患が疑われたため、筋電図検査および筋生検検査を実施した。



筋生検検査の結果、免疫染色においてジストロフィン欠損が認められ猫の肥大型筋ジストロフィーの確定診断が得られた。

筋ジストロフィーの治療にはプレドニゾロンの投薬が有効であることが知られており、本症例も症状の緩和が得られている。

残念ながら、筋ジストロフィーの根本的な治療法はまだ確立されていないが、人ではエクソンスキッピング療法などの新しい治療法が確立されている。発症率は非常に少ない疾患ではあるが、ゲノム解析による変異部位の特定や治療法の確立が期待される。

執筆:武藤 陽信

## 獣医師紹介

おおたけ たいが  
大竹 大賀



日本大学 生命資源科学部 獣医学科 卒業

日本獣医生命科学大学 放射線学教室神経班研修生

JAHA 認定 総合臨床医

Brain Camp (Neuroscience Course, Ohio state university) 修了

Cranial Neurosurgery Course and Laboratory 修了

所属学会: 獣医神経病学会、獣医脳神経脊椎外科研究会

むとう はるのぶ  
武藤 陽信



日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医学科 卒業

日本獣医生命科学大学 放射線学教室神経班研修生

所属学会: 獣医神経病学会

学会発表

2019年 獣医神経病学会: 猫伝染性腹膜炎により頸髄領域に肉芽腫性病変を形成した若齢猫の1例

2021年 獣医神経病学会: ミトコンドリア脳症と診断したボストンテリアの1例

2022年 獣医神経病学会: 椎間板内バキューム現象を有する病変に経皮的レーザー椎間板減圧術を実施した犬の1例